



◆共同体又は構成団体の主な関連活動実績

一般財団法人銚子円卓会議（以下、銚子円卓会議とする）は、2013年度（平成25年度）千葉県「地域コミュニティ活性化支援事業」を契機に発足した、多様なまちづくりの主体が連携する協議体です。2015年（平成27年）6月10日、銚子市との「銚子まちづくりパートナーシップ協定」の締結に基づき、「地域資源である「ヒト」「モノ」「コト」「カネ」の発掘・育成・架橋によって、協働のまちづくりを推進し、魅力と活力あふれる地域社会の実現を目指す」社会教育活動を行ってきました。2024年（令和6年）6月27日、地域内外の個人、企業の方々からのご寄付を設立資金に法人格を取得し、一般財団法人（地域コミュニティ財団）として、これまで以上に分野や世代を越えて、人とひとが結びつき、相互に信頼を生み共感が広がる社会の実現の可能性を追求しています。

【OSUSOWAKE（おすそわけ）】

銚子円卓会議が実施している「OSUSOWAKE」は、地域全体で災害に備えるための新しい防災活動で、「共助のローリングストック」と呼んでおり、この取り組みは、令和3年度に千葉コラボ大賞（千葉県知事賞）を受賞しています。

OSUSOWAKE の仕組み

このプログラムでは、一口3,000円で全国どこからでも参加できる新しい防災活動です。参加者は、地元企業（ビジネスパートナー）の産品を選択して概念として備蓄します。（企業は備蓄数を確認。資金は銚子円卓会議が管理。）災害が発生し、協定を結んでいる地域や団体から銚子円卓会議に支援要請があった場合、支援を必要としている方にお届けいたします。もし災害が起これば支援要請がなかった場合は、備蓄品は個別に各参加者の手元に届けられ、継続して次の備えをしていただくことを促します。このサイクルは1年間を1期として行われる他、3か月ごとの季節備蓄も同時に進められています。

OSUSOWAKE の目的

OSUSOWAKE は、以下の目的を持って実施されています。

- ① 防災意識の向上と寄付参加意識の醸成：市民一人ひとりが日常生活の中で防災について考え、寄付への参加意識を高めることを目指しています。
- ② 専門知識の活用と教育：千葉科学大学危機管理学部の学生が、その専門的な学びを参加者や地域に提供しています。彼らはリスクマネジメントを専門的に学び、その知識を社会に還元することでOSUSOWAKE の魅力を高めています。
- ③ 連携の拡大と理念の普及：協定を結ぶ地域を増やし、連携を深めることで、OSUSOWAKE の理念を日本全国、さらには世界へと広める広報活動も行われています。
- ④ 中間支援組織の強化：銚子円卓会議は、この事業全体を調整し、多様なまちづくりの主体をつなぐ中間支援組織としての基盤強化を図っています。

OSUSOWAKE の主な特徴

- ① 日常と災害時の連携：「いつも」の食生活や地域社会のあり方が、いざという時に役立つように、日常と災害時がゆるやかにつながる仕組みとなっています。
- ② 地域間連携：地域の中で完結させるのではなく、関係人口を可視化し、地域間の連携を促進します。

- ③ 防災教育への貢献：異なる立場の様々な人々が関わる実践的なプロジェクトとして、「担い手」や「つなぎ手」といった防災教育の課題とされる人材の育成に貢献しています。
- ④ 千葉科学大学との連携：この取り組みには、千葉科学大学危機管理学部の木村研究室の学生たちが深く関わっています。企画を行った学生たちは、小学生の頃に東日本大震災を経験し、幼いながらも様々な困難を乗り越え、現在は、安全・安心な社会を築くための人材を養成している危機管理学部で、危機管理に関する専門知識と実践的なスキルを学んでいます。大学での専門知識と実践的なスキルを習得する中で、自分たちが楽しみながら、継続できる防災への備えとして、OSUSOWAKEのスキームを考えました。このように、彼らの学びがOSUSOWAKEに活かされ、プロジェクトをより魅力的なものにしています。

◆事業に取り組むに至った経緯

「全国展開型 OSUSOWAKE」事業は、千葉県銚子市で既に実施され、その有効性と実現可能性が評価されている「OSUSOWAKE」の仕組みを全国に展開することを目的としています。この事業は、地域コミュニティのレジリエンス向上と Well-being 社会の実現に貢献することを目指しており、特に「コレクティブ・インパクト」の考え方を深く盛り込み、複数のステークホルダーとの協働を重視しています。

銚子市は、深刻な人口減少・少子高齢化、経済の停滞と雇用機会の減少、危機的な財政状況、そして台風や豪雨、津波、地震といった複合的な災害リスクと地域住民の防災意識・共助意識の課題を抱えています。これらの複合的な地域課題に対し、銚子市で生まれた「OSUSOWAKE」は、単なる防災備蓄に留まらず、平時の地域産品消費による経済活性化、寄付文化の醸成、災害時の相互扶助を一体的に促進する、包括的なアプローチを提供できる稀有なモデルであることが、事業に取り組む大きな理由となっています。特に、銚子市が持つ豊かな一次産品を、OSUSOWAKEの仕組みを通じて備蓄品や寄付者へのリターン品として活用することで、新たな販路を開拓し、地域経済を活性化させる直接的な機会を提供できます。また、「寄付型地域ぐるみローリングストック」というアプローチにより、「もしもの時に助け合う」という共助の精神を日常の消費活動に組み込み、地域住民の防災意識を高め、地域全体のレジリエンスを強化することに貢献します。

このように、銚子市の地域課題解決に向けた実績と、その多角的なアプローチが、全国の同様の課題を抱える地域社会にとって持続可能な Well-being を実現するための重要なモデルケースとなり得るという認識が、本事業の全国展開に至った経緯です。

将来の展望

銚子円卓会議は、OSUSOWAKEを通じて、日常的に防災を考える人を増やし、地域内外の良好なつながりを深めたいと考えています。地域の魅力を活用・発信しながら、備蓄と支援を両立する新しい防災スタイルとして、OSUSOWAKEが日本各地に広がり、「MOTTAINAI」が世界の言葉になったように、「OSUSOWAKE」が世界の言葉になることを目指しています。

< OSUSOWAKE DATA >

第1期 436口	参加者へお届け	○パートナーエリア4カ所
第2期 512口	参加者へお届け	千葉県香取郡東庄町
第3期 439口	参加者へお届け	和歌山県有田郡広川町
第4期 458口相当	珠洲市へ支援	千葉県香取市
現在第5期	参加者募集中	石川県珠洲市

OSUSOWAKE 専用サイト

